

2人だけの部員 NZ留学

OB支援「本場の熱 感じて」

存続危機の北野高ラグビー部



2人で基礎練習をする波田侑大さん(左)と新留海さん—大阪市淀川区

かつては強豪校として知られ、いまは部員不足で存続の危機に直面している府立北野高校(大阪市淀川区)のラグビー部で、わずか2人だけの部員が14日から10日間の日程で、ラグビーの盛んなニュージーランドに短期留学する。今春、新入生の入部がなければ活動が休止する恐れもあるため、OBが企画し、費用の一部も負担する。留学先では公立高のラグビー部の練習にも参加する予定で、OBらは「本場のラグビーの熱を感じて帰ってきてほしい」と成果に期待している。

北野高のラグビー部は、過去、全国大会に6回出場したこともあり古豪。OBには現役の日本代表メンバーもいて、橋下徹大阪市長もOBのこともある古豪。OBには現役の日本代表メンバーもいて、橋下徹大阪市長もOBのこともある古豪。

は2年生の新留海さん(17)と波田侑大さん(17)のみ。平日は2人だけで基礎練習を繰り返し、週末に他校との合同チームで練習に参加している。今回のニュージーランド留学は、4月の新入生勧誘を控えた2人を励ますため、OBらでつくる「六稜ラグークラブ」が計画。費用の一部は、寄付を集めて支援する。

留学先では北部の都市オークランドの公立高校に通い、ラグビー部の練習に参加する予定。新留さんは「ラグビーに対する姿勢や思いなどを知りたい」、波田さんは「体づくりのトレーニングや技術を学びたい」と意気込む。

一方で、今年春の新入部員の勧誘は難航も予想される。昨年春の勧誘では、1年生全9クラスを昼休みに3回ずつ

足を運んだものの、入部したのは1人だけ。その部員も「1人では友達ができない」と夏には退部してしまった。

新留さんは「まずは自分たちがラグビーをしっかりと楽しむことが大事。今年はニュージーランドの経験も生かし、勧誘の際にはラグビーの魅力も伝えていきたい」と話す。国内では、ラグビーの2019(平成31)年ワールドカップ(W杯)日本大会の開催地に府内から東大阪市が選ばれたばかり。六稜ラグークラブの藤村研二さん(69)は「W杯に向けて関心も高まってくるはず。その機運に乗って部員を獲得してほしい」と激励している。

北野高では7日午後2時から、OBでラグビー日本代表の前主将、広瀬俊朗選手「東芝」が「私のリーダーシップ論—ラグビーから学んだこと」と題して講演する。協力金500円。問い合わせは事務局(☎06・6306・0374)。